

令和 7 年度 重点目標・達成指標と重点的取組・取組指標と学校関係者評価(第 2 回) 実施日 12月 【九重町立東飯田小学校】

【教育目標】

確かな学力を備え、協働し自ら考え行動する児童の育成  
～学ぼう・伝えよう・繋がる～

【育成を目指す資質・能力】

- 主体的に学ぶ力
- 読解力
- 

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価者からの意見
知識及び技能の習得 基礎基本の知識と技能をもとにした課題解決能力の育成(学ぼう)	国語・算数の単元末テストの「知識・技能」の領域で標準期待値を超える児童の割合70%以上 (1学期) 国語72% 算数71% (2学期) 国語65% 算数78%	○個に応じた少人数指導の実施 ○ドリルタイムの複数指導の実施	○全教職員での算数・国語の単元末に個に応じた少人数指導を実施する。 (1学期) 肯定的評価89% (2学期) 肯定的評価100% ○全教職員で週2回のドリルタイムの指導を行う。 算数・国語のサイクルで復習を行う。 (1学期) 肯定的評価89% (2学期) 肯定的評価100%	・国語が軒並み下がっている。原因が何か、職員で研修し、具体策を練る必要がある。漢字が書けない、覚えられないこと、絵本から脱却できないことなどから読み取りで点が取れないと思う。朝読書のレベルアップを。 ・算数は次の学年に積み残しが無いよう、ドリルタイムの複数指導を徹底し、増やす。スピード感のあるペーパーでのドリルはどうか。
		○家族読書の推進 ○静かな家庭学習時間の設定	○学期に1回ノーマディアデーを設定し、配信メールで周知し、家族で読書を行う。 (1学期) 肯定的評価90% (2学期) 肯定的評価77%	・ノーマディアデーはやり方を少し変えていくほうが良いような気がします。 ・2学期に77%に下がったのはなぜか？メールで周知はできた。 ・1学期よりも肯定的評価が13%下がっている理由が気になりました。ノーマディアの取り組みは続けてほしいです。メディアから離れた時間を読書以外にどう過ごすのか？どう過ごしたのか？を問うとより深いもの位なるのでは？ ・学校と家での活動があることで、それぞれが「学び」という共通点でつながることができています。本のタイトルや内容から、親が子どもの関心事を知る良い機会になります。
		○放課後チャレンジ教室での知識・技能習得	○公民館主事が毎週水曜日、公民館で行事の中で体験や工作などを実施し、取り組み姿を通じ評価する。	・子どもには必要な行事であり、学期ごとに話し合いが必要と思う。 ・「今回はこれを作ります」と段取りを説明しますが、なかなかすぐに理解できないみたいです。そして自己流でどんどん進める子どももいますが、結局行き詰ると素直に質問してくれるようになりました。教えてあげると「あっ、そうなんだ」とそれこそ素直な表情になっています。早く完成させたいといった意欲が出ているのかと感じます。 ・毎回違う政策や行事に合わせた体験など、まじめに取り組みむ子供もいれば、最初から最後まで落ち着いてやれない子どももいる。学校の授業の延長線ではないが、気を抜きすぎずはチャレンジ教室の楽しさも意味もなくなってしまいます。 ・1学期と比べ、特に低学年の児童の工作等の作業に取り組みむ姿勢が改善された。年度当初は、スタッフの説明も集中して聞けなかったが、2学期では説明を聞いて丁寧に作品作りに取り組み姿が見られた。
思考力、判断力、表現力の育成 自ら考え、深め、相手・目的意識を持ち表現する力(伝えよう)	国語の単元末テストの「読むこと」の領域で期待値を超える児童の割合70%以上 (1学期) 74% (2学期) 79%	○国語の「読むこと」の単元で言語活動を導入する。	○物語や説明文をもとに、紹介カードづくりやリーフレットづくりなどの言語活動を取り入れる。 (1学期) 肯定的評価100% (2学期) 肯定的評価100%	・児童の必要感のある課題設定を目指す。(教科書に示されているものにとらわれず) 言語活動の具体物のモデルがあるとよい。 AIによる例文の作成(教師の負担減、例文量の確保を狙う) ロイノートの授業案を活用する。各単元のワークシート、単元計画例が掲載されている。 ・単元テストは、授業で何度も読みこんだ文章のテストなので、点数が取れるかもしれない。初見の文章がどれだけ読み取れるか、確認が必要。(町標準学力調査の結果を分析)
		○音読への意欲の向上	○保護者は、週1回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ。 (1学期) 肯定的評価91% (2学期) 肯定的評価75%	・音読もしっかり定着していますが、学年でのばらつきはありそうです。親も子どもゆくりした時間が取れず、少しやつけたいになったり、低学年では、長文になると、後半は気持ち折れてしまうこともあります。お互い読むだけ、聞くだけにならないような方法を教えてください。 ・各学年、音読を宿題にしているため取り組みやすいと思うが、「どんどこどこが面白かった?」「どう感じた?」など読んだ内容について親が問いかけ、興味・関心を深めていけたら ・肯定的評価が下がっている理由が気になります。6年生は2学期より音読で社会の教科書(歴史)について読むことがあり、これは音読に対しての意欲の向上としてはいいなと感じました。(親も)せつかつくので、国語だけでなく、歴史上の偉人など、低学年でもわかりやすいようなものがあれば、興味を持ち楽しく学べそうです。 ・音読は語彙力だけでなく自己表現の向上にもつながる大切な取り組みです。学校外(家)での「学ぶことが楽しい」という環境づくりに役立つので続けてもらいたいです。
		○公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○公民館主事が毎週水曜日、公民館での行事体験や工作などの活動で、スタッフに認知、賞賛の声をかけをお願いし、アンケート調査を実施する。 ○礼儀正しい言葉遣いの指導をすとも積極的に肯定的評価をする。	・公民館でたまたま子どもたちに会う機会があり、話しかけると、はっきりした口調で受け答えしてくれる。一事が万事ではないけれど、東小の姿を見た気がした。 ・子どもの成長ははかり知れないので、関係者が気付くことに意識することが大切と思う。 ・それぞれの完成度はまちまちですが、その子の個性が出ています。なるべくほめてあげて一緒に喜びあっていますが、うれしそうな表情になったときは、少しだけ自信が着いたのかなあと感じる場面があります。 ・子どもたちは自分の好きな活動にはとても積極的に取り組みます。「好きこそ物の上手なれ」良い個性を伸ばしてほしいと思います。けじめの無さや乱暴な言葉遣いなど、気になることは多くありますが、スタッフは子どもたちに寄り添っていきたく努めています。 ・児童の承認・認知については、公民館での活動によるスタッフとの関わりが深まるにつれて、児童の承認欲求は満たされてきたように感じる。 学校や放課後児童クラブとは、違う環境の中で一部の児童は、新たな一面を見せているように思う。
学びに向かう力、人間性等の涵養 自主的に行動し、他者との協働を図る態度の育成(繋がる)	「自主学習の内容を自分で決めている」の児童アンケート(4年生以上)で肯定的評価80%以上 (1学期)「楽しい」96% (2学期) 85%	○児童を主体とした授業改善 ○高学年で自主学習に取り組む	○学期に2回程度協調学習に取り組む (1学期) 肯定的評価60% (2学期) 肯定的評価70% ○2週間に1回以上自主学習を取り入れる (1学期) 肯定的評価100% (2学期) 肯定的評価100%	・ペア学習やグループ学習も協調学習の一つなので、「学期に2回」以上にもっと実施できている。協調学習＝ジグソー学習ととらえると70%になるかもしれない。職員の共通理解が必要。 ・自主学習の取り組みはどの学年も実施できている。楽しんで追及することが目的なので、内容については無理強いせず、学習嫌いを作らないことが大切である。漢字や英単語、計算問題など、弱点補充の内容をしていく子もいる。自主学習の内容を掲示して紹介することもできている。今後も継続していきたい。 ・自主学習を子どもと一緒に取り組むことは、多くの保護者の負担になっていることがわかる。自主学習の日にちを固定化したり、保護者のサイン欄を自主学習ノートに設けたりするなどして、負担を減らさる、子どもの取組んでいる内容に関心を持っていただけるようにしたい。
		○家庭での学習習慣を定着させる	○月に1回以上子どもの自主学習と一緒に取り組む (1学期) 肯定的評価49% (2学期) 肯定的評価50%	・子どもの自主学習は定着してきていると思いますが、保護者と一緒というところがなかなか難しいので、評価が伸び悩んでいるのかと思います。高学年になると、特に子どもだけでできるので、それはそれでいいのではないかと思います。一緒にではなく、その自主学習を保護者に見せて評価(感想)などを一言書いてあげるというほうが良いのかもしれない。 ・ほんの少し上がった。子どもは高学年になるにつれ、一人で勉強できるようになるため、なかなか「一緒に」の時間が取れない ・一定の取り組みはできているものの、50%ということで、習慣化に至るまでのハードルが高いと思います。家で、より取り組みやすくするための具体的なヒントを出してともに協力できる仕組みができるとよいです。
		○公民館活動で児童の主体的な活動の場を作る	○活動内容を児童とともに考える	・推進する上では、現状把握の上、一つの方向性に絞った環境づくりが良いと思う。 ・子どもたちにはよくいっていますが、何事も集中して取り組んでほしい。そして作業の最中に、これから先のことを考えてそのまま続けたら壊れるかも、敗れるかも、もしかして落ちるかもと想像をしながら進めてくださいと指導しています。 ・チャレンジ教室の良さはつながり。上級生が下級生の世話をする。この縦のつながりと同級生の横のつながり。ともに同じ時間を共有した思い出も貴重なことと思う。私たちもこの縦と横のつながりを一層濃いものとなるよう応援したい。 ・育成協の事業で10月に3泊4日の通学合宿を行った。児童・保護者のアンケート結果から肯定的な意見が多かった。児童の主体性を育むことも通学合宿の目的の一つで自分のことは自分ですという意識を再確認することができたようだった。
働き方改革の推進 持続可能で働き着のある職場の創造	在籍時間を町平均以下にする 100% (4~6月) 100% (8月~11月)	○毎月1日分以上年休を取得する	○月初めに計画年休を設定する。 (1学期) 実施率100% 取得率27% (2学期) 実施率100% 取得率41%	
		○定時退庁日を設定する	○毎週金曜日をノー残業デーとする (1学期) 実施率100% 実行率65% (2学期) 実施率100% 肯定的評価100%	